

## 第4回諏訪湖環境研究センター（仮称）のあり方検討会 議事概要

日 時：平成31年2月14日（木）午後1時00分から午後3時00分まで

場 所：諏訪合同庁舎5階講堂

出席委員：井上晃男委員、沖野外輝夫委員、小口理子委員、傳田正利委員、宮原裕一委員、山崎三千代委員、小口智徳主幹（百瀬委員代理）、樫尾正行課長（花岡委員代理）、増澤和義委員、酒井裕子委員、小林司委員、斉藤昌明委員、澤本良宏委員

オブザーバー：公立諏訪東京理科大学、健康福祉部健康福祉政策課、環境部環境政策課、諏訪建設事務所

事務局：環境部水大気環境課

【発言者】	【発言内容】
事務局	<p>ただいまから第4回諏訪湖環境研究センターのあり方検討会を開会いたします。</p> <p>私は、本日の進行を務めさせていただきます長野県環境部水大気環境課の新井と申します。よろしくお願いいたします。</p> <p>初めに、長野県の環境部の高田部長よりご挨拶を申し上げるところですが、インフルエンザにより本日は欠席となっております。かわりに環境部の水大気環境課の渡辺課長からご挨拶申し上げます。</p>
渡辺水大気環境課長	<p>皆さん、こんにちは。水大気環境課長の渡辺でございます。</p> <p>会議に先立ちまして、一言ご挨拶申し上げます。</p> <p>本日は第4回諏訪湖環境研究センター（仮称）のあり方検討会を開催いたしましたところ、ご多忙の中ご出席いただきましてまことにありがとうございます。</p> <p>また、日ごろから県行政の推進、とりわけ環境行政の推進に格別のご理解、ご協力をいただき厚く御礼申し上げます。</p> <p>このあり方検討会ですけれども、前回は昨年12月19日に開催いたしまして、センターにおける調査研究や学びの場の機能の方向性、調査研究の業務内容などについてご検討いただきました。</p> <p>委員の皆様からは、必要な職員と予算を確保していかないとセンターの機能の波及は難しいですとか、研究のための職員を置き、また、その職員が研究に注力できる環境づくりが必要、長野県全体をカバーする新しい形のネットワーク型の組織を諏訪湖に置く位置づけをしていく必要がある、大学や地元企業などとの一層の連携や情報交換が必要などのご意見をたくさんいただいたところでございます。</p> <p>本日は、センターで想定されております主な機能のうち、環境学習や情報発信</p>

事務局	<p>など、学びの場の機能や取り組みについてご検討いただきたいと考えております。幅広い視点からの忌憚のないご意見をいただきますようよろしくお願いいたします。本日はよろしくお願いいたします。</p> <p>本日の出席者は、次第の2枚目につけておりますので、ご確認をお願いしたいと思います。</p> <p>なお、座長のほか、都合により今井委員が欠席されております。</p> <p>本日は、代理出席を含め13名の委員の皆様にご出席いただいております。また、オブザーバーといたしまして、下に記載のとおり記載の機関の皆様にご出席をいただいております。</p> <p>本検討会は、原則公開で行い、議事の概要も公表されます。議事概要作成のため、本会議の音声を録音しておりますので、ご承知おきください。</p> <p>また、発言の際はマイクを使用させていただきますようお願いいたします。係員がお持ちいたします。</p> <p>次に、資料の確認をお願いいたします。本日は、会議次第のほか、次第の下に記載のとおり資料1から3、1から3は同じホチキスでとめております。それと参考資料を配付しております。また、資料の不足、乱丁等がございましたら、随時事務局までお知らせください。</p> <p>なお、本日の会議終了は、遅くとも午後3時までということで予定しております。</p> <p>あと、資料で幾つか施設の関係のものをお配りしておりますので、後ほどご説明したいかと思っております。</p> <p>それでは、これから議事に入りたいと思っております。設置要綱では、座長の県環境部長が進行を務めることとなっておりますが、高田部長が本日欠席となっております。</p> <p>設置要綱では、座長の代理に関する規定は特段設けておりませんが、状況を考慮しまして、県環境部水大気環境課の渡辺課長に進行をお願いしたいと思いますのですが、よろしいでしょうか。</p>
事務局	(異議なし)
渡辺課長	<p>それでは、渡辺課長、進行をお願いいたします。</p> <p>それでは、会議の進行を務めますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>最初に、会議事項に入ります前に、資料1の第3回検討会の主な発言について、事務局から説明をお願いいたします。</p>
事務局	(事務局から資料1を説明)

渡辺課長	<p>ただいまの説明に対しまして、委員の皆様から何かご発言等がございましたらお願いいたします。</p> <p>(なし)</p>
渡辺課長	<p>よろしいでしょうか。</p> <p>それでは、お気づきの点がございましたら、会議事項の中でご発言いただいても結構ですのでよろしくお願いしたいと思います。</p> <p>それでは、会議事項の学びの機能について検討に移りたいと思います。</p> <p>前回、第3回の検討会では、センターの機能の方向性や調査研究機能についてご意見をいただいたところがございます。今回は、センターの主な3つの機能のうち環境学習や情報発信など学びの機能と、それに関する連携についてご意見をいただきたいと思っております。</p> <p>最初に、事務局から資料の説明をお願いいたします。</p>
事務局	(事務局から資料2及び資料3を説明)
渡辺課長	<p>ただいま事務局から資料の説明がありました。</p> <p>資料の中で、井上委員が館長を務められている天竜川総合学習館のほか、湖周市町村の取り組みなどの説明もありましたけれども、委員の方から補足等がございましたらお願いいたします。</p> <p>井上委員、お願いいたします。</p>
井上委員	<p>皆さん、こんにちは、学習館の井上です。事務局から説明をしていただいて資料もついていきますので、これはホームページに載っております、カラーだともっときれいに見えると思いますが、天竜川総合学習館は、主に子供たちが学習をする場というのが一つのメインで、そのほかに大人だけで学習する場が一つ。それからコミュニティーの場、地域の皆さんやサークル、団体の皆さんがここへ来て、いろんな勉強したり、あるいは自分たちの好きな絵手紙ですとか、挿絵ですとか、そういったものの勉強を自分たちで行っていくものが一つ。それから、天竜川の堤防がありまして、防災拠点という3点を備えた一つの建物であります。</p> <p>「かわらんべ」につきましては、お手元にパンフレットと、もう一つ広報紙をお配りをさせていただいております。広報紙につきましては毎月発行させていただいております、約1カ月間の「かわらんべ」で実施した講座と、それから、学校や保育園などから要望をいただいて、ここにあったリクエスト講座という、出前講座も含まれますけれども、そういった内容を載せております。そのほかに次回の1カ月間の「かわらんべ」の予定を載せております。それから、天竜川に関するいろんな疑問点を少しずつ載せて皆さんの興味が引けるようにつくってまいりまして、今年の7月で200号になるというところでございます。</p>

特に、かわらんべ講座は、毎週土曜日を基本としながら、春休み、夏休みを含めて年間で100講座を実施しております。それから、リクエスト、ご要望にお応えしていく講座も、かわらんべ講座と重ならないようにしながら、約100講座を受け入れているところであります。飯田、下伊那の保育園ですとか、小学校の皆さんばかりではなくて、遠くは伊那、駒ヶ根からも来ていただいております。そういう形で非常にご利用をいただいております。特にリクエスト講座として、伊那、駒ヶ根の皆さん、これ以外の部分はこちらから出前という形で行って、いろんなお話をさせていただいているところでございます。

そのような形で年間約3万4,000人の方に見えていただいて、お子さんという、それこそ1歳ぐらいの幼児から大人までという、こういう形で参加をいただいているところです。小学校3年以上になれば単独でもいいですよというふうにして、あとは父兄の方が保護者としてついていただくという形で受け入れをし、おかげさまで15年を過ぎるのですけれども、徐々にとリピーターが非常に増えてきております。今年はお子さんで、年度で区切りますけれども、4月からこの3月までで45回ですか、参加をしてくれる子供が何人かいるような状況であります。

施設はそのような形で運営をしておりますが、運営は、職員は4名です。そのほかに地域の皆さんで十四、五人いますが、お手伝いをしてくれる皆さんが交代といたしますか、来ていただいてお手伝いをしていただいております。そんな方が、裏方がいていただけるので非常に講座がもっているかなと、こんなふうに思っているところです。

簡単ですが、以上です。

渡辺課長

ありがとうございました。

市町村の委員の皆さんから何か補足等はございますでしょうか。

市町委員

(なし)

渡辺課長

よろしいでしょうか。何かありましたら、後ほどお願いいたします。

それでは、検討に移りたいと思います。

学びの場の機能につきましては、本日が実質最初の検討になります。センターで行う取組等の具体的な案を事務局案としてお示しできればいいのですが、諏訪湖創生ビジョン策定の際には、この学びの推進に関しまして余り検討時間がとれなかったとお聞きしております。このため、まずは委員の皆様から、本日は日ごろ感じていらっしゃることも含めましてフリーディスカッション的にご意見をいただいて、それらを参考に、次回以降事務局案をお示しできればと考えております。

検討事項案では、大きく機能3関連と機能4関連に分けて示しておりますので、できれば項目ごとにご意見をいただければと考えております。

最初に、機能3関連の環境学習や情報発信等の取り組みに関して、ご意見や感じていることがありましたらお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

沖野委員、いかがでしょうか。

沖野委員

この機能3について、資料の説明を聞いていると課題とされていることのほとんどが既にやられているんですね。各地域で講座はやっているし、いろいろな体験学習もしているし、これから新たに何かをやるという必要はないくらいにやられておりますけれども、全体としての統一性がないように感じます。事業の中心になって、それをうまく運営していく、または企画していくようなセンター的役割が今のところ欠けているということなのかなと思います。それと同時に、いろいろな情報発信をしていくということですが、情報発信するには情報を収集しておかなくてはいけないわけで、現状では中心になって情報収集をするところが欠けています。そういう欠けているところを新設のセンターに持ってくる必要が一つあるのかなという気がします。

情報収集するといっても簡単ではないわけで、やはりそれを専門にやる人たちがいて、そこで整理をして、発信できるような形にするということが必要です。市町村等の博物館でもいろんな展示や企画を持っているわけですが、どこでいつ何をやっているかというのを統一してわかる場所がないと、利用するほうはしにくいわけですね。ユーザーは6市町村それぞれに行き回って聞かなくてはならないということになるわけです。それをどこか1カ所で把握していれば、地域の人にとってはわかりやすいし、参加しやすいということで、センターの機能として必要なことは、情報管理室というか、そういうものを担当する人も含めてしっかりとつくる必要があると思います。この情報の中には県で実施している委託の報告書であるとか、過去にいろいろ調査、研究されていると思うので、そういうものをまずは諏訪湖に関連するものを中心にして集めるということから始める。それをもとにして、現状がどうなっていて、足りないものは何かという分析まで情報管理室はやるわけですから、非常に専門的な知識、技術を持っている人が必要になると思います。同時に聞くほうは、そういう情報が余り専門的に出てもらっても聞きにくいから、基本は立場としてこういうものが聞きたいということをする場がなければいけないですね。情報を発信しても、受け手のほうの必要に合わなければ、ただ流れていだけで利用効果が上がらないということで、できればそこに市民研究室みたいな、市民が参加して、実際に勉強したり、研究したり、調査をしたりと、そういうことができるような専門の部屋が特に必要だと思います。これは霞ヶ浦環境科学センターにはあるのでしょうか。市民研究室という名前がいいのかどうかはわかりませんが、ただ、そこに市民が来たらやれるという場所だけではなくて、来た人に対応してそれを指導できる人たちがいなければ機能できないわけで、当然そこにも人員配置が必要になると思います。「かわらんべ」のスタイルで、職員が少なくても地域サポーター的なものがたくさんという手もあるので、その辺の細かなところは、またある程度構想ができた

	<p>段階で考えていけばいいですが、いずれにしても、情報収集室、情報管理室も、市民研究室も人員の配置が必要だというような気がします。</p>
渡辺課長	<p>ありがとうございました。</p> <p>ただいま沖野委員からご意見をいただいたところなのですが、ほかの委員の皆様はいかがでしょう。日ごろ考えていることとか、こんなことがセンターでできたらいいとか、そういう自由な発想でご意見を頂戴できればと思います。</p>
澤本委員	<p>水産試験場の澤本です。</p> <p>うちは結構、小学校とか、高校とか、あと県の機関の皆様とか、水草の学習会の説明をしてくれとか、そういう環境学習にちよくちよく出ているのですが、スタッフが少ない状態でもあるので、実は結構これが重荷になっていて、やはり多くの委員が言われるように、どこか統括的にそういうことをコーディネートしてもらって、専門的にそういうやっていただける方がいるといいなと思う次第でございます。そのほかにもいろいろ重複するところがあるので、そういうところがこのセンターに組み込まれて、コーディネートしていただける人が欲しいなというふうには思います。</p>
渡辺課長	<p>山崎委員、お願いいたします。</p>
山崎委員	<p>今の澤本委員のお話を伺っていても思ったのですが、多分コーディネートする、楽しい研究があっても、その研究を受けたい学生や小学生がいても、マッチングさせられるコーディネーターが多分いないのだなというのはわかりました。</p> <p>すみません、井上委員さんにお伺いしたいのですが、天竜川総合学習館をオープンして、今いろいろな講座をやられています、始めてきての課題、何かぶつかった壁みたいなものがある、そこを改善してきたとか、今現在抱えている課題などがもしあったら教えていただきたいなと思います。</p>
井上委員	<p>平成15年に開館をして、今平成31年ですから、約15年を過ぎたのですが、当初はやはり来てくれる人が少ないというのが一番です。やって来る子は数人とか、せいぜい来て十何人という、やはりそこから情報発信をしていくというところが一番大事だったかなと思いますし、友達が友達を、子供は友達を連れてくるという、こういうことも大事かなと思います。</p> <p>今一番取り組んでいるのは、先ほどお配りをさせてもらった（広報紙の）「かわらんべ」です。毎月配っていて、その昔は、こういうことをやりましたという時間がかかるんです。そこへ写真を入れるようになったら非常に見やすくなって、子供たちに見てもらえる。流域の子供たちには、学校へは家庭数配って、全</p>

部持っていったらよろしくしています。今、申し込みをいただいて、来てもらうときに聞くのですけれども、何で知っていただいて来てもらったか、そういうやりとりをしながら、広報紙は大事だなと思っています。また、新聞ですとか、それから、いろんなテレビですとか、そういったところにも出してもらうようにもなってきましたので、そういう意味では、そういう情報、報道機関を使っていくというのは非常に大事かなと思います。

山崎委員

ありがとうございます。今現在何かやっていて課題はありますか。

井上委員

講座のまずネーミングです。何とか調査ですとか、水質調査をしましょうとか、何々の水生生物の研究をしましょうとかというのは子供たちが寄ってこないです。今も、絵文字を使ったりとか、あるいは何とかを科学するとかというふうにすると、子供たちが飛びつきやすいネーミングというのが、その1行だけで子供たちが来るか来ないかというのを決める、そのネーミングが1つだなと思っています。

それから、講座が先ほど言ったように少ないのから、もう一つには多くなるころでは、少し自然の、例えば草、こういったものを食べてみようとか、何々をしてみよう、こういうものをつくって食べてみようとかというのが入ると非常に（参加者が）多くなります。この3月23日が草餅、餅草をとって、ヨモギをとって、それでお餅をみんなでつこうとかというと、大体来ているのが150人くらい、今、平均が1講座平均で40名くらいです。

そういう意味で、ネーミングとそういったものをどう組み合わせるか、食べるものとか、自分のおもしろい、川遊びなんかは非常に好きですから、そういったものと調査を組み合わせるなどして呼び込むと、40名に近くなってきます。

そのようなことで、平成30年度は（平均で）今37人くらいですから、若干少なくなっていますけれども、またネーミングを変えて来年は、同じようなことでも少し変えていこうかなと思っています。

山崎委員

ありがとうございます。本当すばらしいなと思って、講座の様子、ホームページを少し見たことがあって、ネーミングがすごく楽しいなというふうに思っていました。楽しいこと、いいことをやっても、やっぱり届かないと意味のないことだなと改めて感じました。ありがとうございます。

渡辺課長

ありがとうございました。井上委員からは、実際に今講座をやっている中で、課題も含めて情報発信が大事だというようなご意見をいただきましたけれども、ほかに具体的に何かこういうことをやったらよいのではないとか、こういう場として機能が発揮できればよいのではないかなというようなご意見も含めて、自由にご意見をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

小口主幹

岡谷市でございますけれども、今までのご発言を聞いている中で、岡谷市でもやっているもので、こういったことをやっていただけると助かるなというようなことがあります。かわらんべさんを大分参考にさせてもらったりしたことがあるのでいけないのですが、全国組織でこどもエコクラブとありますけれども、岡谷市でも岡谷こどもエコクラブということでやっております。かわらんべさんと数を比べますと、比べるべくもなく8回しかやっていないのですけれども、これもなかなかネタ的にリピーターをどうやってこのところに来てもらうかという中で、新しい企画を考えていかなければいけない。今年というか来年、また新しいのを考えてやってみたところ、先ほどかわらんべさんで言っていた企画がたくさん出てきたので、結局同じだったかなとは思ったりもしたのですが。

こういったそれぞれのところでいろんな企画をやっています。先ほど沖野委員も言われたように情報の収集という形で、こういったものを収集していただいて、逆に我々の企画としても情報共有させていただいて、そういった中で、例えばこういった企画をやりたいのだということの中でコーディネートしていただくとか、こういった機能がありますと私どももこういった企画をやりやすいなというように思っております。

また、こういった学習なのですけれども、やはり座学的なものではなくて、体験学習というようなものをしていきたいということは常々考えているわけなのです。例えば、私どもも例年、野鳥の観察会を実施しているのですが、今回は夏場ではなくて、今度は冬の鳥を見ようということで野鳥の会さんをお願いをしたりもしています。そうしますと、その観察をする拠点、外でももちろん見るのですけれども、何かしらの拠点があって、そこをベースにして動き回るといようなことがあるといいのではないかとということで、やはり野鳥の会さんからも少し言われたりして、今回は下諏訪町の諏訪湖博物館をお願いして、何とかそこで見させてもらって、また動こうなんていう話をしてもいるのですけれども、やはりセンターを起点にして現場を見られるというようなことがありますと、こういった諏訪湖を主体にした企画ということで、そういったものもつくりやすいのかなと、今、私も聞いておりまして感じた次第です。

渡辺課長

ありがとうございます。

今、岡谷市さんから、こどもエコクラブというところで企画というような部分で、コーディネートというようなご意見をいただきましたけれども、ほかの市町村さんには何か要望ですとか、今、実際にやっている中で課題とかはございますでしょうか。

樫尾課長

諏訪市ですが、よろしく申し上げます。

やはり情報の発信という面で、諏訪市の博物館でもいろんな企画展を実施をしておりますが、諏訪市民の方には広報を通じてどういう企画展があるかというのは周知できているのですが、諏訪市以外の方についてはなかなか情報発信ができ



ていない。ホームページのみというのが実情でございます。

ですので、逆に下諏訪町さんの博物館と連携して、こういう企画展があるからというのはなかなか情報発信ができないので、研究センターの中で、きょう、この期間については、博物館ではこういった取り組みがありますといったことをご案内してくれるとか、ホームページにリンクしていただけたらとか、そういったことをしていただけたらと広がっていくかなと感じております。

また、博物館の展示は、どこもそうなのですが、見ていただいてもパネル展示や実物の置いてあるのがほとんどで、動くものがないというのが少し弱いかないかなということを感じております。いろいろな環境学習をする中で、子供が何に飛びつくかという、やはり動くものについてはどうしても見たくなくなったり、目で追ったりするという傾向がございますので、何かそういう新しい展示も考えていただけたらいいかなと考えております。

増澤委員

下諏訪町です。よろしくお願いします。

資料の9ページになりますけれども、諏訪湖に関する環境教育・啓発等の状況ということで、それぞれの市町の活動が載っておりますけれども、下諏訪町の欄のところの一番下のところに諏訪湖クリーン祭の開催というのがあります。どうしても環境学習ということになると小学生、中学生が主になります。下諏訪の小学校でも、この諏訪湖クリーン祭というところでごみ拾いをするのですが、これに向けて事前学習、また、事後学習というものを学校でやっていただいております。その間にこのクリーン祭でごみを拾うということですが、あくまでも希望者による参加ということで、また、学校の授業的な意味合いもあって子供たちも参加をしているというところの意味合いが少なからずともあるのかなと感じております。

先ほどの講座のこともありましたけれども、やはり学校の授業的なもの以外で子供たちが自主的に参加できるということがやはり大事になってくるのかなと思います。そうすると、どのように子供を引きつけて、諏訪湖の環境にしっかりと学習ができるようになるかなというのは大変難しいところではありますけれども、学校の学習以外にそういう活動の選択ができればいいのかなと思います。

また、資料のその上に「第4回川ごみサミット in 下諏訪」とあるのですが、これはたまたま平成30年度に実施をして、31年度は実施はしませんけれども、子供たちの学習した成果をその場で発表していただきました。子供たちにとってみると、やはり自分たちのやったことを発表できる場が必要ではないかなと、そうするとさらに張り合いを持ったりだとか、自分たちの成果が人に評価してもらえらるということは大変大切なことだと思いますので、そういうことも含めたコーディネーターがこの環境研究センターの中で、1つご指導をいただいたりだとか、意見を求められるような場があれば、またよい方向に進んでいくのかなとは感じております。

渡辺課長	<p>ありがとうございました。</p> <p>今、市町村の皆様から貴重なご意見をいただきましたけれども、ほかの委員さんはいかがでしょう。小口委員さんはいかがでしょう。</p>
小口委員	<p>私は、諏訪湖のほとりに住んでおまして、先ほど情報入手という話がありましたが、諏訪市民ですので、諏訪市の広報で諏訪市の活動を報告いただいで知ることができます。ただ、岡谷市、下諏訪町の活動というのはやはり知る機会がなかったなというのを、きょう改めて気がつきました。</p> <p>それで、先ほども沖野委員から情報管理室で情報収集をする必要があります、その上で発信するというお話がありましたが、発信の中には市民に対しての広報という役割が必要なのかなと思いました。その広報の仕方も、市町村ごとにしていくのか、あるいは市町村にかかわらず長野県全域なのか、あるいは日本全国なのか、その辺はつかめていないのですけれども、広報的な担当をされる方も必要なのかなと思いました。</p> <p>それから、諏訪湖にかかわる活動としまして、地域住民が関わっている諏訪湖畔清掃がありまして、たしか年に2回一斉清掃というのがあります。これは市町村で分かれてやっているのか、同日に諏訪市も下諏訪も岡谷もやっているかはちょっとすみませんわからないのですけれども、例えば、諏訪湖の周りを一斉に実施するというので広報を通じて案内をすることも考えられると思います。あと、以前あったのがアイスクャンドルというのがありまして、諏訪湖の周りを全部、諏訪湖の水を凍らせたところにロウソクを入れてアイスクャンドルでつなぎましょうというイベントがあったのですけれども、そのときは諏訪湖の周りをずっと車で回らして、一周見て回って楽しみました。こういった市町村をまたいだ活動を、この新しくできる環境センターで音頭をとっていただくとか、広報を担当していただくことができるのかなということを考えていました。</p> <p>以上です。</p>
渡辺課長	<p>ありがとうございます。</p> <p>ほかはいかがでしょう。</p>
宮原委員	<p>二つほどお話させていただきたいと思います。資料にいろいろで挙げていただいておりますけれども、どうしても大人がやっていることというような形で出てくるような気がします。実際、高校生が諏訪湖や諏訪湖の周りの環境について、自主的にクラブ活動などで調べたりしていると思いますので、そういったところをサポートするような役割があってもいいのかなと思って聞いておりました。</p> <p>昨年だったと思いますけれども、（全国高等学校）総文祭では、諏訪湖で実地のフィールドワークみたいなことを全国の高校生相手に地元の高校生がしたというようなこともあります。そういった高校生の活動、あるいはクラブ活動、あるいは総合学習の中でも、諏訪湖を題材に高校生が学んでいます。その一部は資料</p>

3にも書いてありますように皆さんがいろんな形で高校生のサポートをしていると思います。その辺を目に見えるような形で取りあげていただければなと思います。

それと、情報発信というところですけども、諏訪湖の様子が目に見えるということであれば、例えば、諏訪湖の内部映像等が見えるとか、現在の水質の様子が幾つだよというような、速報値を出すという話も聞いておりますけれども、そういうものが見られるというような、ここに行けばこんな情報が、常に新しいものがあるよというようなことが見られる場所になるといいかなと思っております。

以上です。

渡辺課長

ありがとうございました。

今、今まで子供たち向けのお話も結構出た中で、高校生のサポートですとか、そういうような観点のご意見をいただきました。広く市民に向けてとか、子供だけでなく大人も含めてというようなところで何かご提案があれば、そうしたものもいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

小口主幹

今、高校生のサポートというお話がちょうど出たものですから思い立ったのですけれども、この3月3日に、岡谷東高の生徒さんを中心にしてスポーツごみ拾いをやりたいということで、私たちも相談を受けたりして、地域振興局にもかかわっていただいております。そういった中で企画を立てたりすることは高校生でも十分できたりしているのですが、やはり慣れていないということの中で、例えばこういった周知ですとか、イベントをこういうふうにやりますということを広げたり、人を集めたりというようなところで、やはり苦戦しているというところが大分見てとれました。

例えば、3月3日にやりますというお話もしましたけれども、これからチラシを配るので、皆さんもご存じないと思いますけれども、やはり皆さんもそういったことでやるんだなと今初めて聞きましたよというくらいだと思います。そういった活動をサポートしてあげる、今回はスポーツごみ拾いということで、学習とはもしかしたら少し一線を画すかもしれませんが、そういった高校生たちの、我々大人が企画するものではなくて子供たちが企画するものがサポートできる体制というのも今ご指摘いただいたように必要だなと感じましたので、発言させていただきました。

渡辺課長

ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

傳田委員さん、お願いします。

傳田委員

博物館とか見せていただくことがあります。博物館を見させていただくと、地

域の自然、それから産業、風土が凝縮して見られて、1回それを見てから書物を読むと非常に文献の理解が進むというのがあります。博物館等は、大人も楽しめる場所というのが非常に環境学習には大事なのではないかなと思います。

特に、地域の子供さんの成長に伴い、子供さんの興味が移り変わっていく場合があると思います。興味が変わってきて、新たに博物館に行ってみると、諏訪湖に対する、各年齢に応じた情報を地域で共有できるようになると良いのではないかなと思っています。諏訪湖周辺には、博物館とか郷土史を含めた地域の博物館があると思うんですけども、それらがどういう情報を持っていて、どの博物館にアクセスすればどういう情報が見られるということがうまく整理ができて機能する諏訪湖情報センターを持っていると諏訪湖の全体の情報のつながりが見られる良いセンターになると思います。

さらに、リアルタイムで諏訪湖の情報が情報管理室に入っているようであれば、今の諏訪湖の状態がよくわかると思います。諏訪湖環境研究センターに行けば、地元で活発に活動されている環境グループの情報も含めて流域の皆さんが諏訪湖の情報を一括で知れる機能を持たせたらいいかなと思います。

渡辺課長

ありがとうございます。

諏訪湖創生ビジョンを担当されているところで、何か市民の方からご要望等があればと思うんですけども、酒井委員さん、いかがでしょうか。

酒井委員

諏訪湖創生ビジョンをつくる中でご意見いただいたのが、諏訪湖周辺の学校であっても、なかなか諏訪湖を学ぶ機会がない。少し離れて富士見町とか原村のほうに行くともっとないのではないかなというようなお話をいただきました。

そういう中でお子さんたちが、諏訪の方ではなくても長野県内、県外の方でもいいのですけれども、諏訪湖のことに興味を持ってもらって勉強できればいいなと考えまして、実は地域振興局独自で諏訪湖の学習ツアーみたいなものも去年から始めています。県の施設の水産試験場とか、釜口水門などを見て回るようなツアーですけども、そういうのはやはり最後は教育委員会というか、市町村と一緒にになって学校のほうに取り入れてもらうようにしないと、たくさんのお子さんに見てもらえないというのと、同じような機会が与えられないというのがあります。ですので、こちらのセンターでせっかくいろんな地域のいろんな財産があるのを、うまく連携したり、情報を集められるのであれば、そのところに今度は市町村の教育委員会や、学校の先生が行って、お子さんの学習に使うのに、どんな方法とか、使い方をすればいいですかみたいなことが相談できる、教育委員会などとも連携できるような、そういうコーディネートをしてもらえればありがたいなと考えております。

渡辺課長

ありがとうございます。

	<p>さまざまなご意見をいただいたところですが、ほかに何かございますか。 澤本委員さん、お願いします。</p>
<p>澤本委員</p>	<p>諏訪地域住民の方々の環境教育のような感じで話がされているのですが、それ以外にもやはりエリア外の人たちが諏訪湖へ来たときに、諏訪の人たちの暮らしぶりというか、そういうものを含めた環境みたいなどころを見てもらうようなということは想定されているのかどうかはわからないので、そういうところもあってもいいのかなと思っています。</p> <p>あと、それに関して言うと、去年、福岡の宗像大社のところに、世界遺産になったところへ行ったのですが、そこにも博物館があって、宗像大社の歴史とか、そこに暮らす人々の暮らしぶりを展示して説明してくれているのですが、そこを運営している人たちは基本的にボランティアの方がやっていって、今話していたのは職員がやるみたいな話な感じなのだけでも、そういうボランティアの人たちにもかかわっていただくような、そういう中心的なコーディネーターという方がいらっしゃる方がいいのかなと思います。諏訪湖でも科学ツアーをやっている方とか、自転車の関係をやっている方とか、いろんなそういうボランティア的にやってくれる、それぞれの団体ではやっているのだけでも、やっぱりまとめていけていないのかなというのが今の状況だと思うので、そういうところも何か考えていただければと思います。</p>
<p>渡辺課長</p>	<p>ありがとうございます。 ほかにいかがですか。</p>
<p>宮原委員</p>	<p>ただいまの澤本委員の話とも関連するかと思うのですが、私どもの施設に直接電話がかかってきて、他県の小学生や中学生が、修学旅行か何かで班に分かれていろいろ勉強して歩くうちの一つにしたいというような話が少し前にありました。最近小学生自身の授業が忙しくなって、そういうことが減っているのかもしれませんが、他県から来て、諏訪の歴史なりを勉強しようというような需要がないわけではないと思います。諏訪湖は、流域下水道もできたことが一番だと思いますが、水質が随分改善したという誇れる歴史があるわけですから、諏訪地域だけの子供さんたちが諏訪湖の浄化なり、諏訪湖の自然を学ぶだけでなく、それを県内の小学生、中学生も同じように学ぶ機会があればいいなと思っております。そういった子供さんたちの需要に応えるためのコーディネーターのような方がいてくださると、直接電話がかかってきても、こういうときはこちらのほうで聞いてもらっていいというようなことをしてもらえるとよいと思いました。</p>
<p>渡辺課長</p>	<p>ありがとうございます。 機能3の関係で、ほかに何かご意見のある方はいらっしゃいますでしょうか。 斉藤委員さん、お願いいたします。</p>

斉藤委員

環境保全研究所の斉藤と申します。

当所は研究所ですので、環境問題に関して科学的見地からの環境学習ということに今取り組んでいるところでございます。そういう中で感じていることを話させていただきたいと思っております。科学的な部分というのは非常に難しいということがありまして、非常にわかりにくい面があります。そういうものをいかに伝えていくかという中で、当所が今積極的に取り組んでいる部分としては、例えばサイエンスカフェとか、出前講座などがあります。直接その人たちと会って話しながらやっていくという取組によって、できるだけわかりやすい形で伝えていくというようなところをやっているところではあります。そういうところが環境の問題を皆さんに伝えるという意味では非常に重要な部分かなと考えています。

ただ、これもなかなか現状は、先ほどもご説明がありましたように、当所は調査研究とかいろいろな分野に取り組んでいるので、なかなか順番として、諏訪湖も含め環境学習の充実というところになかなか行きつかない。だから、そういうことをやっていくにはマンパワーとかが必要になりますということで、このセンターの中ではそういうところがしっかりできるような体制をつくっていければと考えております。

渡辺課長

ありがとうございます。

機能3関連で、ほかにご意見はありますでしょうか。

(なし)

渡辺課長

機能3の関係でも、連携というような部分とか、コーディネートというようなご意見もいただいたところなのですが、それでは続きまして、機能4関連ということで、連携方策や共同実施などについてご意見がありましたらお願いいたします。先ほどの話で重複する部分はあるかとは思いますが、いかがでしょうか。

澤本委員、お願いいたします。

澤本委員

環境教育というか、水辺のかかわりがあるので、我々はいろいろ子供たちや、大人もそうですけれども、そういう説明に行くのですけれども、僕らは研究員なので、研究者は広報とかそういうのは、気をつけてはいますけれども、はっきり言って素人というところがあって、広報の仕方ですとか、そういうところがやっぱりまだまだ十分っていないと、そういうところを補うようなところがあるとネットワークとして成り立っていくのかなと思っています。

渡辺課長

沖野委員、お願いいたします。

沖野委員

今の澤本さんの発言は重要なんです。研究者が直接広報したりすることも必要ですけれども、現実には広報を担当する専門の人がいて、そこでコーディネートしていかないと、研究者が研究も広報も両方やるというのは非常に難しいと思います。研究も広報も片手間にやれるものではないから、それぞれに人員配置が必要だと思います。その辺のことがどこでも抜けていて、大学でもそうだと思うのですが、大学の教官が研究、教育だけでなく、広報もやったりしなければいけないというのは非常にもったいない話です。だから、研究、教育、広報などを繋ぐ仕組みをつくるというのも大事なことだと思います。

もう一つは、長野県は全国的にも公民館活動が非常に活発ですね。諏訪地域にもたくさん公民館があるわけで、そこでいろいろ学習活動が行われているわけです。公民館のそういう活動の中に、諏訪湖の問題を含めて広報できるような体制を、ネットワークをつくるということが必要かなと思います。どちらかというと、学校とか博物館とか、そういうところを中心になるけれども、本当は公民館のほうが一般住民の方と結びついているわけで、そこへどんどん入り込んでいくということが必要なのかなと思いました。

渡辺課長

ありがとうございます。

今、沖野委員から公民館活動の中に組み入れたらどうかというようなご意見がありましたけれども、市町村さんのほうで、例えば今回のつくるセンターと共同でやるとか、何か連携がとれるとか、こういうことができるのではないかなというようなご意見があればぜひ伺いたと思います、いかがでしょうか。

樫尾課長

諏訪市ですが、市のほうでは公民館活動が活発で実施をしております。特に諏訪湖に係る公民館活動は今2講座あると聞いておまして、来月にはワカサギ釣りを体験する講座もあると聞いております。ですので、逆に本当に水辺のほうに近づいていく講座ですので、やはりそういった活動を本当に諏訪市民が対象なのですけれども、うまく広げていければ、2市1町で公民館活動をどうするのか、合同でやるとか、そういった活動があれば広がっていくような気がします。

あと、少し別の話題なのですけれども、2市1町で構成しております湖周行政事務組合で岡谷市に諏訪湖周クリーンセンター、清掃センターを運営しております。今、小学校4年生を対象に、そこで環境学習、ごみの問題について、ごみの分別からリサイクル、あと、諏訪湖のパネル展示もしていると聞いております。小学校4年生ですので、各学校から大型バスで岡谷市の清掃センターまで行きますので、逆に、その日は清掃センターを見終わった後、この研究センターに行って、活動、いろんな研究とか、そういうところを見ていただくとか、そういうプログラムもできるのではないかなと感じております。

ですので、もしつくとすれば、本当にバスがとめられるくらいのスペースがないと、なかなか小学生の皆さん一緒に行くのは難しいかなと、学習として出ていくのは難しいかなという気はいたします。

渡辺課長	<p>ありがとうございます。具体的なお話を伺いながらということでありありがとうございました。</p> <p>ほかにいかがでしょうか。</p>
小口主幹	<p>すみません、機能3とも関連する話だったかもしれませんが、先ほども少しこどもエコクラブの話をさせていただいたのですけれども、やはり私どもも長年やっている、だんだんと講師をお願いしている方々が高齢化してきて、これから先のことを考えていかなければいけないということもあります。</p> <p>ネットワークということの中で、かわらんべさんのほうで先ほど地域のボランティアの方が協力していただいているというようなこともお話をいただきました。そういったことも踏まえ、例えば、ここにお集まりの皆さんも含めて、いろんな得意な分野をお持ちの方々もおられるかと思えます。そういったことを踏まえて、何かしら講座であったり、イベントであったり、こういったものをみんなで共同してできるような流れ、あるいはお互いにイベントで派遣し合ったりというようなネットワークをつくっていくと、いろんな意味で広がっていくのではないかと、このように考えているところです。</p>
渡辺課長	<p>ありがとうございます。</p> <p>ほかにいかがでしょうか。実際に講座を幾つもやっていたらお立場から、井上委員さん、何か、そのようなほかの機関との連携などがあればよろしくお願いたします。</p>
井上委員	<p>私どもところでは、「かわらんべ」という学習館があって、そのほかに美術博物館、図書館、動物園、それから科学ものづくり教室というのが、それぞれイベントを抱えて行っています。今、皆さんがそれぞれ言うように講座を持ちながら、いろんな講座を持ちながらやります。これ（各施設）をつなげようということで、今年で4年目になりますか、イベントを今年はどういうのをテーマにして、それぞれのところを回ろうかと、回ってきたら何か景品を出してという形で今進めています。そんな形で、それぞれの施設が特色を出しています。それを8月、9月、10月くらいのうちに5カ所を皆さん回っていただきたいという、そういう連携づくり、それから、自分たちと余りかぶらないものということで、自分のレベルのところ、皆さんのところの講座はこういう講座、うちの講座はこういう講座という形で、年間のものもそうですけれども、そういったようなときの講座も少し応援をするという、そういう形の連携をとっています。</p>
渡辺課長	<p>ありがとうございました。</p> <p>ほかに何か連携策、あるいは共同実施という観点でご意見はございますでしょうか。</p>



沖野委員	<p>沖野委員、お願いいたします。</p> <p>正式な名称がわからないのですけれども、諏訪には諏訪教育会館というのが上諏訪駅の山側にありますが、そこでは諏訪地域の小・中学校、高校の先生たちが集まって、いろんな研究活動をしています。諏訪の自然史という厚い5冊ぐらいの本も以前出したこともあるし、理科の先生だと、理科それぞれの専門の活動をしていらっしゃる方がいたり、グループがあったり、それから、理科だけではなくて社会科の関係の方もいらっしゃると思うのですが、そういう機関とも連携をすると、高校生や中学生との行き来もしやすくなるでしょうし、諏訪教育会館の組織を抜きにしては考えられないのではないかなと思います。田中阿歌麿さんの一番最初の分厚い本、「諏訪湖の研究」の出版は諏訪教育会を出しているわけですから、そういう伝統もあるし、それから、いろんな資料もあそこにたくさんあるはずなので、先生方の力も借りる方策が必要かなと思います</p>
渡辺課長	<p>ありがとうございます。</p> <p>いろいろご意見をいただいていますけれども、ほかにいかがでしょうか。</p> <p>山崎委員さん、お願いします。</p>
山崎委員	<p>ネットワークづくりなのですからけれども、この研究センターと、例えば子供とをつなぐというコーディネーターが必要だなと思ったのですけれども、例えば、研究センターから、エプソンさんとか、企業に対して、こういう取組を一緒にやりませんかとか、こういう団体に対して一緒にこういうことをやっていきませんかとか、そういう営業というのは変な言い方ですけども、取組をコーディネートしていく。ただのつながりをコーディネートするのではなくて一緒にやりませんか、コーディネートをしていく人も、これがネットワークづくりの中に入るかどうかはわからないのですけれども、何か待っていて、人が来たらまとめましょうというのを、自分たちからこういうことをやっていかないかというのを行動をするコーディネーターが必要かなと思います。</p>
渡辺課長	<p>ありがとうございます。積極的に働きかけるという観点も必要ではないかというような貴重なご意見だと思います。</p> <p>小口委員、お願いいたします。</p>
小口委員	<p>ありがとうございます。</p> <p>以前も言ったかもしれませんが、会社に行って帰ってという繰り返しであって、地域に対してなかなか貢献ができないということは企業の勤めている人たちも思っていますので、そういった働きかけですとか、お誘いというのを受ける機会があるといいなというのは私も感じています。</p> <p>また、今、取り組みをコーディネートする方という話でしたが、先ほど来話が</p>

出ているのは、ボランティアの方を受け入れて、その方たちに運営していただくとのことになると、今度そのボランティアの方を取りまとめたり、足りない場合には募集したりというようなコーディネートをする人も必要かと思えますので、先ほどのあったような研究員の方がそういったことをするのはとてももったいないことですので、広報を担当されたり、そういったコーディネートを担当する方というのは配置が必要なのかなと思っております。

渡辺課長

ありがとうございます。

今、ボランティアというような言葉が出てまいりましたけれども、かわらんべさんのほうも職員以外に大勢の地域の方というお話を伺いましたけれども、その辺はどんな形でやっていらっしゃるとか、どういう方向性があるとかというお話をいただければありがたいのですが。

井上委員

年齢はもう、それこそ始まったときから入ってきてもらいまして、順次やっていますけれども、70から80代ぐらいの、言ってみればおばあさんたちが主体です。かわらんべに来ることが楽しみという、言ってみれば子供たちというのは孫かひ孫になる、そういう年代になってくるので、それが非常に楽しみで来ていただいております。お手伝いは、そのときの準備から始まって片づけまで、中で子供たちがやるところを見ながら、少し手を出して教えてあげるところまでやってもらっています。

今、世代交代をということで、60を過ぎて、今65と言ったほうがいいんですか、年金がもらえるという、その辺の皆さんを何人か今入れながら、世代交代できるというふうに、何人か今入れたところがあります。やっぱり子供が好きで、そういう講座というか、そういったことが好きでないとなかなかできないので。もう一つには、お子さんを連れて、今学んで来て働いているお母さんたちを、もう少し子供が大きくなったら引き込もうかなと思っています。本当に、ほとんどが無報酬でやっていただいております。

渡辺課長

ありがとうございます。

市町村、あるいは博物館というようなところがありましたけれども、先ほど言った地元の方とか、NPOとかというところとも連携できるのかなという感じがいたしますけれども、何かそういうところでこういう仕掛けとか、あるいはこういうやり方はどうだろうかというようなご意見があれば、ぜひ頂戴したいと思うんですが、いかがでしょうか。

沖野委員、お願いいたします。

沖野委員

サポーターというと、大学生のパワーというのは結構大きいです。幸いにして諏訪東京理科大が茅野市で公立化したところですし、少ないながら信大のセンターがあるということで、大学生の力をうまく出してもらって、それでいろいろ地

	<p>域の問題を解決していくということもできるんじゃないかなと思います。例えば、信大の場合ですと、私が在籍していたときには学生は4、5人しかいませんでしたが、卒業研究のテーマとして諏訪湖にかかわるものを作ってもらう、あるいは全体のプロジェクトの一部をテーマとしてもらう、そういう形でいろんなデータがたまっていきます。ただ、理科大の場合は少し中身が違うので、どういう形でサポートをしてもらえるのかわからないですが、その辺、市川先生はアイデアマンですから、東京理科大だったら学生をこんな形で参加してもらえそうだということがないでしょうか。市川先生に質問というか。</p>
市川オブザーバー	<p>ありがとうございます。まさにそれだと思っていて、今までの大学というのは専門知識を教えるということにずっと来ていたのですけれども、そうでないなら、その知識をどうやって世の中で活用していくんだろうかということのほうこそが重要だというか、うちの大学では経営工学と経営の融合ということで、経営というのは何かというと、技術は技術だけではだめで、それが製品やサービスとなって人々の暮らしにつながっているからなっている、一言で申し上げるとそういうふうに言えるのかなと思います。そのとき、今までの大学というのは、まさに技術とか知識だけだった。そこに対してもっと地域に出て行って、実際の課題に触れて、その技術の利活用を考えてみるということが必要だろうということで、プロジェクトベースの授業をこの10年ぐらい取り組んでいます。この地域連携総合センターも、僕が所属しているところですが、足りていない学生への学びとして、地域のそういった学びの対象をどんどん提供していこうという活動方針を決めておまして、学生への告知・報告も、今ネットでかなり、メールで送れる形になって、良質な皆さんの学びになるコンテンツを提供します。そうするとプロジェクトを募集していくと、なかなかまだ授業のカリキュラムというところまででは一部しかとっていないのですけれども、それ以外のものはどんどん学生に紹介して行って、それは学校としても支援していこうということで、その学生の交通費を応援したりとか、そういった体制まで整えていて、この1年間やっているところです。ただ、いろいろ要望があって、それをうまくそしゃくして、学生に有益なものは出していく、そんなことをやっていますので、ぜひどんどん呼びかけてほしいと思っております。</p>
渡辺課長	<p>ありがとうございました。</p> <p>今、学生、大学生、そういう方の力をかりてというようなお話がありましたけれども、信州大学の宮原委員さん、何かご意見はございますでしょうか。</p>
宮原委員	<p>先ほど沖野委員のほうから話がありましたように、我々はほぼ全員が諏訪湖を研究しているので、そういった形で研究面で連携できればよいと思っております。</p> <p>先日、県の皆さんが諏訪湖でこんなことをしていますよというようなお話を聞</p>

	<p>かせていただく機会がありました。そういった中に、私たちというか、特に本学の学生も一緒に話を聞くと、何が課題なのかというようなことが目に見えてモチベーションが上がるのではないかなと思っていました。どのような形がよいかはわかりませんが、お互いの研究なり、調査なりを、情報交換をするような場みたいなものを年に何回か設けていければよいと思って聞いていました。</p>
<p>渡辺課長</p>	<p>ありがとうございます。機能4の関係でご意見をいただいておりますけれども、ほかに何かございますか。</p> <p>(なし)</p>
<p>渡辺課長</p>	<p>よろしいでしょうか。少し時間が早いのですが、意見が出尽くしているようでしたら、きょうのところは、また後日ということもございますけれども、よろしいでしょうか。</p> <p>先ほど東京理科大学の市川先生にお話しいただいたところなのですが、きょうもオブザーバーとして来ていただいたということで、何か追加でお話ししていただけることがございましたらお願いしたいかと思いますが、いかがでしょうか。</p>
<p>市川オブザーバー</p>	<p>私、問題意識というのは皆さん同じだと思って聞いていました。特に、センターとか、博物館などの資料は、どちらかという受け身コンテンツでそろえていなければいけない、情報収集しなければ情報発信もないと思います。まずは情報、コンテンツがなければいけないのですが、それは待っていてもしょうがないので打って出なければいけないと思います。だから、受け身のものと打って出るものが必要であり、打って出る時にどうするか、だから、両方の機能があるよねということをもっと維持しなければいけないのかなと思います。調査研究活動という、どちらかという受け身でそろえておけばいいみたいなところがあります。博物館も展示だけ置いておけばいいということではなく、今はどの博物館も企画を練ってどんどん打っています。そういったときに、やはり、企画という、これまでのまさに研究職とかでは出てこない、そういったプロデューサー、僕はプロデューサーと呼びたいなと思ってます。コーディネーターはどちらかという来た人に対して相談しますが、コーディネーターは待ち受け的なニュアンスが強いです。プロデューサーというのはどちらかという打って出るというんですか、何かそのように働きかける、連携を呼びかける点で、あえてプロデューサーみたいなことを、そういったものの両面を備えないといけないのではないかと思います。普及活動を広げたいのだったら営業活動を仕掛けなければいけない。そうすると、やはり学校教育とかというものとくっついているというのはすごく大きいかなと思います。</p> <p>僕は茅野市なのですが、茅野市の坂本養川（さかもとようせん）の話</p>

は、博物館がありまして、そのコンテンツというの、そのカリキュラムに含まれるようになっていきます。最近始めたのが縄文プロジェクトという名前で、茅野市にある縄文教育というのはかなり子供たちに手薄だと、これはちゃんと組織的にやりましょうと言っても、教育カリキュラムに入れるということで、そういった発表会も用意したのですが、徹底的に地域のリソースに関心を向けるようなカリキュラムをつくり込んでいます。そういったところまでやらないと、せっかく地元にあるのだからそれを使うというので、郷土愛とかも打って出るという、それもまたプロデュース的なところではないかなと思いました。

あとは、前回出たときに思ったのは、沖野委員の発言が印象的だったのでですが、「諏訪湖にある環境センターだよな」という発言があって、確かに設置要綱を改めて見ると、諏訪湖をはじめとする長野県内の湖沼の環境改善の促進とかとあったので、と言いながらも、さすがにこの諏訪湖というのを中心にしてもいいのかなと思いました。そういった意味では、ここでほかの地域にとってのモデルケースとなるような手法とか、そういったものがあるといいのだろうなと思います。それこそ自然環境など住民の中ですごく展開できているのはどういうことをやってきたからなのか、それに対して手法が学べるようなものとかという情報があってもいいのかなと思いました。

あと聞いているうちに、先ほど「かわらんべでは災害のことも含んでいるんですよ」という話や防災施設の話があったときに、僕が思ったのは、このセンターってもしかしたら環境なんですかね、でも、片方は多分、対立的にあるのが、安心・安全で治水というのですか、そういうのがあると環境破壊とどうやるのかと対立している。でも、それまで諏訪湖はすごいことがいっぱい行われていましたよね。埋めてみたり、はがしてみたりとか。何かそうやってテクノロジーはどうやってあったらいいのかなという勉強材料というのはあるのですが、センターはそういうことはどうやって歴史を振りかえるのか。

もう一つ出てくるのは経済活動、漁業との関係でどうしたらいいのかという、そういったことを考えるのに諏訪湖はすごく勉強できる材料がいっぱいあるというのが僕の感覚です。自然保護だけではなくて、産業とかをどうするか。例えば、魚の問題とか、そういったことも勉強できていいのではないかと思います。要するに、人々はどうやって自然とかかわらなければいけないのかというのは、自然との調和とか、安心・安全な自分たちの治水活動とか、経済的な暮らしとか、そういったビジネスがあって、すごく定まっている地域だよな、そういうことが勉強できていいのではないかと感じました。

あと、もう一つ思ったのは、ボランティア的なところなのですが、僕自身もいろいろな活動とかにかかわって思うのは、知恵を出したりするところが、意思決定とか、その程度であればボランティアでできると思うのですが、事務的な作業、あるいは何か作業的なところまではさすがにボランティアではやりにくくなるので、やはり事務局があって、知恵をかりるだとか、お話をしてもらおうとかというところではボランティアに、そういった事務局というのがし

	<p>っかりしているとボランティア力というのは、先ほどもボランティアは募集するのも難しいし、束ねるのも難しい、そこが事務局だと思います。でも、スポットのお手伝いであれば、ばっと人というのは来てくれる、それを束ねる専門的な事務職というのはあったほうがいいのか、そんなことを思いながら聞いていました。</p> <p>でも、皆さんの思っていることというのは同じで、研究職が余分な仕事をするのは、だから専門がいたほうがいい。そういう意味では、そういった専門職やプロデューサーがいる、事務局がいる、そうすると、いろいろ束ねられていいのではないかなと思いました。本学にも学生はたくさんいるので、勉強させたいので、ぜひお願いしたいと思います。ありがとうございました。</p>
渡辺課長	<p>ありがとうございました。</p> <p>きょうの皆様、委員さんの方々のご意見は、コーディネートというようなところが結構中心だったかと思うんですけども、センターの中にこういう場所があったほうがいいのか、こういうようなものがあつたらいいとかというような部分で、何かご要望とかお考えとかがあれば、最後にお聞きしたいと思うんですが、そういうようなご意見は何かございますか。</p> <p>沖野委員、お願いいたします。</p>
沖野委員	<p>一応、諏訪湖が中心になるので、諏訪湖をやるからには船がなければいけない。船があると港がなければいけないということで、そういう立地も考えておかなければいけないと思います。船があっても免許を持っていなければ運転できないということがある。その辺のところも細かく考える必要があるのかなと思います。もう少し先の話かもしれませんが、立地を考えるときには、どうしてもそばに船の係留できる場所が必要というのが一番大事だと思うので、その辺も考えていただきたいと思います。</p> <p>言葉の話なのですが、今井委員が前から何回もおっしゃっていた「調査と研究は違いますよ」という話をされていましたが、今回の資料でも調査研究となっています。調査と研究の違いというのを、事務局、まとめられる方もきちんと理解して文書をつくられたほうがいいのかと思います。調査研究なのか、調査と研究なのか、研究のための調査なのか、行政のための調査なのか、いろいろあるので、その辺をきちんとした日本語を使ってほしいなと思いました。</p>
渡辺課長	<p>ほかにご意見はありますか。</p> <p>(なし)</p>
渡辺課長	<p>よろしいでしょうか。</p> <p>ありがとうございました。</p>

	<p>本日は、学びの場の機能や取り組みにつきまして、フリーディスカッション的に幅広くご意見をいただきましたので、次回検討会では本日いただいたご意見を整理いたしまして、具体的な案としてお示しし、検討いただければと考えております。</p> <p>本日本日予定している内容は以上ですけれども、全体を通してご意見、ご質問などありましたら、最後にお問い合わせいたします。</p>
小口主幹	<p>申しわけありません。きょうの話と関係ない話でございますので恐縮なのですが、先ほど私のほうで岡谷東高の生徒さんたちがスポーツごみ拾いをということを発表しましたところ、諏訪地域振興局の方がチラシを刷ってきてくださいました。せっかくですので、皆様にご案内だけさせていただきたいと思っております。</p> <p>私も直接かかわっている者でないものですから、私からの説明でよろしいかどうかとも思うんですけれども、スポーツごみ拾いということで、3月3日の午後1時から3時までの間に、岡谷の湊小学校のグラウンドに車をとめられるということですので、こちらに集まさせていただきます。スポーツごみ拾いは何ですかという方もおられるかと思うんですが、グループごとに、例えば1チーム4人とか5人とか集まりまして、それでごみ拾いに行きます。ごみを拾って袋にごみを入れ、その重さをはかり一番重かったところが優勝という形になります。全国各地で行われているのですけれども、そちらの事例をとりますと、例えば環境負荷の高いものほど点数が高いとか、こういったやり方をしながら、スポーツ、競技性を持たせたごみ拾いをしましょうということをやっているのがスポーツごみ拾いということになります。高校生が主体になって実施しているイベントですので、もし関心を持った方がおられましたら、ぜひご参加いただければと思います。</p> <p>少し関係のない話で申しわけありませんが、よろしくお問い合わせいたします。</p>
渡辺課長	<p>ありがとうございました。</p> <p>ほかに何かございますでしょうか。</p> <p>(なし)</p>
渡辺課長	<p>よろしいでしょうか。</p> <p>それでは、最後に事務局から連絡等がありましたら、お問い合わせいたします。</p>
事務局	<p>委員の皆様、本日はありがとうございました。</p> <p>次回の検討会ですけれども、新年度に入りまして開催させていただければと考えております。開催日につきましては、後日、委員の皆様のご予定を紹介させていただき、改めてご連絡させていただきたいと思っております。</p> <p>また、本日の検討内容や今後の検討に当たり、お気づきの点やご不明は点、必</p>

---

要な資料等がございましたら、時間がなくて恐縮なのですが、2月中に事務局の水大気環境課宛て、メールまたはファクスによりご連絡いただければと思います。

以上をもちまして、第4回検討会を終了いたします。

お気をつけてお帰りください。ありがとうございました。